

## 研修プログラム

- 研修プログラム名 中国中央病院内科後期研修プログラム（腎臓専門医コース）
- 研修責任施設名 公立学校共済組合中国中央病院
- 共同研修施設名 \_\_\_\_\_
- 受け入れ人数 1 名
- 研修プログラムの目指すもの

最初の1年は、内科認定医として、内科全般に渡って、各種疾患に対応、その後、2年間で腎臓専門医取得を目指すコースです。腎臓専門医取得には、認定内科医研修終了後3年以上以降で、認定教育施設で3年以上の期間研修が必要です。

- 当院の特徴

当院は総ベッド数 277 床の中規模病院であり、腎臓病研修にしても内科全般をみる必要があります。腎生検は 20 件前後/年、新規透析導入は、10～20 人/年、維持透析は現在、14 台（最大 42 人）および腹膜透析数名。内科としては、腎・透析、糖尿病・内分泌、呼吸器、血液、消化器、循環器、腫瘍内科が少人数ながらそれぞれ専門医が常勤であり、外科（消化器、乳腺、肺、甲状腺）、整形外科、産婦人科、小児科、皮膚科、脳神経外科、心療内科、口腔外科の常勤を有します。（非常勤として眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科）従って、中規模病院としては、比較的には幅広く症例を経験することが、可能と思われます。

- 参加する医師に期待すること

内科の一員としてだけでなく、他科や看護部門、検査部門、事務部門などとの連携も重要であり、適切なコミュニケーションをとるマナーを必要とします。

- 研修プログラム（年単位でアウトラインを掲載）

### 内科専門医

1 年目	2 年目	3 年目
当院	当院	当院
内科全般	腎臓内科	腎臓内科

#### 1 年次（卒後 3 年目）

内科にて、主に入院診療を担当する。（外来診療は原則週回）その間に、日本内科学会認定医の受験試験資格を得るための必要症例を検証し、不足症例について充足するように計画する。入院診療では各患者さんについて、1 名の指導医の下に診療を担当する。本人の希望に応じて、上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、頸動脈超音波検査、心臓超音波検査、気管支鏡検査の研修を行う。

#### 2 年次（卒後 4 年目）、3 年次（卒後 5 年目）

内科学会認定医の受験資格申請を行い、受験準備を行い、2 年目以降は、主に腎臓内科

分野での研修を行います。いくつかの分野を並行して研修することも可能です。また当院は糖尿病学会の研修認定施設および透析医学会の教育関連施設でもあり、希望の場合は腎臓以外の症例も経験していただきます。また、希望があれば上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査、頸動脈超音波検査、心臓超音波検査、気管支鏡検査等の研修も引き続き行うことも考慮します。入院診療では各患者について1名の指導医の下診療を行います。

●待遇：給与（年度別の税込み年俸 3年目：7,030,000円・4年目：7,630,000円・5年目：8,230,000円）（超過勤務手当・賞与込み）

宿舎の 有、無）、宿舎月額賃料（21,863円）

勤務形態：（中国中央病院：常勤・非常勤）

休暇日数：（中国中央病院：10日/初年・11日/次年）

●修得できる専門資格

内科認定医、内科認定専門医、腎臓専門医、透析専門医、糖尿病専門医、（その他、呼吸器専門医、血液専門医、臨床腫瘍専門医（3年では年限が足りないものがありますが、当院での研修期間はカウントされます。）

●指導体制：指導医と指導資格

・当院

指導医名：石井啓太（金沢大学 1985年卒）専門医資格 糖尿病

指導医名：平田教至（岡山大学 1988年卒）専門医資格 糖尿病、腎臓、透析

●年度ごとに1人医師が経験できる症例数と内訳

入院患者 約160名（1年次、一般内科患者を含む）

約100名（2、3年次、腎臓患者のみとして）

その他1人が1年間で経験できる手技内訳：

腎生検 10～20例（1年）

透析導入 10例前後（1年）

その他、希望があれば、

上部消化管内視鏡検査 200例（1年次）

腹部超音波検査 160例（1年次）

気管支鏡検査 80例（1年次）

心臓超音波検査 160例（1年次）

下部消化管検査 100例（1年次）